

## 第2回「温泉問題を考える会」開かれる

# 会場一杯の参加、活発な話し合い!

1回目の「会」は30名で始まりました。2ヵ月足らずで開かれた第2回目の「会」は、12月2日、中央公民館第7研修室で60名をこえる人々が集まりました。



竹之内世話人代表は、「私たちの運動は広がりを見せて議会にも影響を与えつつある。さらに市民との対話を広げよう」と訴えました。

☆どこから見ても  
「温泉建設」は道理がない

**活動を開始して 日を追うごとに 多くの反応が**  
竹之内代表世話人の経過報告では、全市へ向けたビラは駅頭や街頭を始め各戸への配布が進み、世話人宅へも賛同の声がいくつも寄せられていること。第三セクターへの参加団体への公開質問状は残念ながらもどの団体からも回答は得られませんでした。

しかし、建設賛成議員に対して再考を促す要望書送付や、電話での会話、面談の申し入れなど活発に行ってきた結果、数人の議員と面談が出来、有効な話し合いが行なわれて来ました。また、他の世話人からも宣伝力やビラで市民の関心が高まって来たこと、「会」が示した各種資料が議員の間では話題となり、12月議会へ向けての対応が微妙に変化し始めていることが報告されました。

**三多摩の 温泉事情は深刻**  
多摩の日帰り温泉レポートを発表した研究者からは、60近くもある多摩の日帰り温泉(スーパー銭湯も含む)は、過当競争の中で集客にしのぎを削っていて、とても今の計画案で参入して成功する見通しはなく、更に宿泊施設併設は、研究者の中でも業界の中でも、最悪と評されていると警告しました。

**災害避難所の耐震診断もしないで**  
議員を代表して影山保護議員が議会の状況を報告。12月議会でいよいよ温泉関連の三項目の議決がされるので状況が緊迫しています。また多くの議員が反対しても仕方がないとしてい

## もっともっと、知ってほしい 日本共産党の本当の姿を

日本共産党はこの程、中央委員会総会を開き当面の活動と、来年1月に予定している第24回党大会の決議案を決めました。  
なかでも、悪政を変えるために、日本共産党の力量を高め、日本の政治を本当に動かすことのできる勢力になることが国の内外から求められていると強調しています。  
この期待に応えていま、全国で党を大きくしようと、党勢拡大の大運動が取り組まれています。11月には全国で2千2百人の読者が増えるという成果をあげ、前進がはじまっています。



**あきる野市でも 取り組みすすむ**  
あきる野市でも、戸沢、影山、山根の各市議会議員を先頭に日本共産党の政策を訴え、「赤旗を増やしています」  
特に「温泉建設は市民の関心も高く話はずみです。(写真見本は東秋留駅頭に立つ山根議員)

る中で「考える会」の行動は建設中止へ向けた影響を与えつつあります。  
更に、9億円の歳出削減の方針を出し、災害避難所の耐震診断さえ削ろうとしながら、温泉建設を聖域とする市長に対する疑問が議会の中では色濃くなっています。とも報告されました。

**世話人代表が今後の取り組みで訴え**

当面12月9日の議会傍聴への参加を呼びかけ「この数日間に議員への要請ハガキをみんな投函しよう。その後も当局から事業計画明細を聞き出して、反論も準備しながら、広く市民に訴える運動を広げていこうと呼びかけ、カンパの訴えをして、散会しました。

---

**楽しいでいこう!**

さむくなってきましたね。この時期、こどもたちはよくカゼをひきます。セキ、ハナばかりか、熱まででたり。あまりひんぱんだと、母としての自分を責めてしまったりしますが、気をつけているつもりでも、外出しなくてもやっぱりカゼをひくのです。いままでは、何度もカゼをひくうちに体が強くなっていくのかなと思えるようになりました。約3年間、しょっちゅう耳鼻科にかよったむすめも、そろそろ中耳炎を卒業できそうです。

たばた あずみ

**野良望**

先日、あきる野市民による合併10周年記念シンポに参加しました。「小さくても夢を持ち、活力のある自治体づくりを目指していきたい」と自立を目指し、真の行政改革を目指している長野県原村の清水澄村長さんの話がとて印象に残りました。原村では65才以上の老人医療費無料化実施、若者に好かれる街にしたいと小学校3年生までの乳幼児等医療費の無料化実施、基金(積立金と起債(借金)の差が黒字という財政運営を行なうなど、きめ細かな行政運営を行なっています。

人口約7500人という小さな村ゆえにできる、一人一人の住民を大切にす温かみある行政を続けていきたいと熱く語ってくださった村長さんの話は、これから合併を迫られている市町村にとって大いに参考になる話でした。(山根)

---

新年号から装いも新たに登場いたします。  
ご協力有難うございました。  
えう、ご期待!

**あきる野民報**

No.429 2005年12月11日/発行  
日本共産党あきる野市委員会  
発行責任者/松平重幸 TEL&FAX 558-0718

●「笑っちゃいました」=計画中の温泉施設に併設される宿泊所のお風呂は水道水の沸かし湯だそうです。温泉に入るには別棟で別料金だっさ。笑っちゃいますよね。

# あきる野 市民が開いた「合併10周年記念シンポジウム」



左から、埼玉・鳩ヶ谷市の奥田敏治氏、埼玉・宮代町の木村芳裕氏、長野・原村清水澄村長、元あきる野市議の鈴木富雄氏、コーディネーターの京都大学大学院教授の岡田知弘氏。

## 実行委員会の呼びかけに 全国から参加、盛大に！

「あきる野市民による合併10周年記念シンポジウム実行委員会」は11月27日、『合併10周年記念・市民による合併検証シンポジウム』を旧五日市庁舎のまほろばホールで開催しました。

実行委員会の中心となった「みんなの会」は、合併が市民にとってどうであったかを検証し、この間2回、市民の手による「白書」を発行し、全国に発信しています。それが力になり、基調講演やパネラーなど全国から協力を得たシンポジウムでした。会場の百名を超す参加者も、あきる野市民はもとより周辺の市町村、遠くは秋田や宮崎など全国からの参加者が目立ちました。

## 合併問題は 住民自身が地域や自治体の未来を考える力に

実行委員長の五味乙氏のあいさつ、大和田一敏氏（埼玉大学講師）のあきる野市の財政についての報告に続き、

岡田知弘氏（京都大学大学院教授）が基調講演を行いました。岡田氏は、合併推進の狙いをきびしく指摘し、住民サービスは低下は必ずだが、合併問題が起こってから住

## 自立を続ける原村村長と 実行委員 五味さんは高校の同級生に笑い

午後には、合併したあきる野市の鈴木富雄氏（元市議）、木富雄氏（元市議）、

自立を続ける長野県原村の清水澄村長、住民投票で自立を選出した埼玉・宮代町、合併と分離を経験した鳩ヶ谷市の各パネラーから報告が行われ、熱心に聞いていた丁さん（60歳）は、「あきる野の運動が各地に影響を与えている



絵手紙/瀬戸岡・高橋泰子さん

日本共産党あきる野市委員会・同後援会

## 新春のつどい

と き= 1月15日(日)午後1:30~  
と ころ= まほろばホール(旧日市交流センター)

文化行事・佐藤真子ソプラノを唄う  
講 演・憲法9条の話

## 歴史探訪 第9回 大悲願寺・横沢(3)



一八二三年の春、多摩郡一帯を範囲として巡礼の札所が定められ、「新四国八八番巡礼札所」と名づけられています。第一番が大悲願寺、第二番が成就院伊奈、第三番が大光寺(高雄)、正福寺・正蓮寺と続き、更に戸倉から檜原、御岳、平井川流域から福生、熊川、青梅・村山・府中・八王子を廻って、最後が真照寺引田で終わりますが、巡礼者のための詠歌が大悲願地に残っています。「靈山のしゃがのみまえにめぐりきてよるずのつみもきへうせにけり」

金色山吉祥院大悲願寺は、真言宗豊山派で本山は大和の長谷寺です。はじめは聖徳太子が全国行脚の折当所に草堂をたててからとされていますが、全国各地に太子信仰がありますから、この説もつけられた伝説でしょう。寺には朱雀門・長屋門・仁王門の三つの門がありますが、このうちの仁王門は一六六九年に建立、一八五九年に改修されましたが、天上に大日如来・草や花・天女などの絵が画かれています。近在の寺院では珍しいものでしょうが、いづれにしても横沢という山緑豊かな環境に恵まれ、多くの寺仏・古文書を残し、豊富な伝説と由来を持った大悲願寺は、市民に安らぎと静けさを与えてくれる寺と思います。

(終) 草花・木崎秀治

## 俳句

本厚の重なり散りて彩深む (勝代)  
丁穿にA型の夫落葉掃く (芳手)  
父植えし十月桜鉢に懐し (かほる)

鳥瓜人なき家に夕日さす (米足)  
たわなる柿を染めたる夕茜 (芳手)  
秋の川滑るかに見え鴨三羽 (下子手)  
老人の何を呟く木の葉髪 (香伝)